

東かがわ市で外国人住民のための防災訓練を開催しました!!

香川県国際交流協会では、地震などの大規模災害発生に備え、災害時に外国人住民を支援するボランティアの育成研修や、外国人住民への防災啓発のための訓練などを実施しています。今号では、2月4日（日）に東かがわ市・香川県との共催で実施した訓練について報告します。

外国人住民のための防災訓練

参加者:6ヶ国38名

(中国・ベトナム・フィリピン・インドネシア・ブラジル・メキシコ)

地域の産業に従事する実習生、日本人の配偶者の方などがたくさん来てくれました★

○東かがわ市の災害を知ろう！ (東かがわ市総務部危機管理課)



やさしい日本語での講義



避難所を地図で確認

○避難所を体験してみよう!①



消防車・パトカー・救急車の中を見よう



起震車で地震体験



過去の災害支援活動



レスキュー服試着



非常食作り



非常持ち出し袋中身確認



問仕切り組み立て

○防災の日本語講座

気象警報などを題材として、災害時に役立つ漢字や語彙を学びました。



避難所を体験してみよう!②

外国人参加者の皆さんには、避難所で多言語支援チームの巡回を待つ被災者を演じてもらいました。

災害時における多言語情報伝達訓練

参加者:3ヶ国25名

(行政・団体職員、通訳・日本語指導ボランティア、大学生、地域のボランティア、外国人雇用主等)



○講義

「多言語支援センターの活動事例から災害時の外国人視点について考える」

講師：(特活) 多文化共生マネージャー 全国協議会理事 柴垣 禎 氏



○多言語支援センター設置運営訓練

災害本部から発信される多くの情報から、いま被災者に伝えるべき情報を、行政・団体職員が中心となって選択し、さらにそれぞれの情報のどの部分が一番重要な、グループで考えました。その後、やさしい日本語や多言語の翻訳文やイラストを用いた掲示物を作成しました。



●避難所巡回訓練●

多言語支援センター本部での待機班と巡回班に分かれ、巡回班は避難所を模した会場へ。段ボールの間仕切りで仕切られたホールに、(被災者役の) 外国人が避難している様は、臨場感いっぱい! それぞれの班で準備した情報を掲示したり、携帯電話で本部と連携しながら、被災者の問題点の聞き取りや情報提供を行いました。



掲示物の説明



聞き取り



チーム内情報共有

○振り返り

各グループで、巡回した避難所の情報を共有し、問題にどう対応すればよかったかなどを振り返ったり、訓練を通して得た気づきや学びについて話し合いました。

外国人参加者をサポートした日本人ボランティアの声

避難所体験の各コーナーで、協力団体の方々が親切かつ丁寧に指導してくださり、外国人参加者もとても喜んでいました。外国の方に日本の防災に対する考え方や、避難所の仕組みなどについて、少しでも理解してもらえてよかったと思います。今後も外国人と地域住民との相互理解が深められるよう、自治体や消防団との連携のもと、防災訓練を定期的 to 実施したいです。

外国人参加者の声

災害が起きる前に準備しておくものや、災害のときにどうしたらいいかが分かって、安心しました。ありがとうございました。人をどうやって助けられるかを、もっと勉強したいと思います。

多言語情報伝達訓練参加者(日本人)の声

自分に何ができて何ができていないかが分かった。また、パスポートをなくしたときの対応や国際電話のことなど、外国人ならではの問題に対処できるよう、少し勉強しておくのもよいと思った。自分の身近なところでも今回学んだことを応用してみたい。



多言語情報伝達訓練参加者(外国人)の声

相手の気持ちに寄り添って、その話に耳を傾けることは、国籍を問わず、人としても大切なことだと思います。そうやって、安心を届けたいです。

参加者の皆さん、スタッフとして支えてくださった関係者の皆さん、ありがとうございました!